

第3回福島第一廃炉国際フォーラム DAY1 住民向けセッション

「知る」セッション

ファシリテーター

開沼 博

(立命館大学准教授)

通常の復興・原発関係催事で多いパターン

聞く→聞く→聞く
→聞く→少し質問→帰る

ほぼ「説明聞くだけ」

ワークショップ系イベントで多いパターン

「思い」を包み隠さず、本音で語り合う

→じっくり語り合う→熱く深く語り合う

→なんか仲良くなり分かった感じ

→なんか一歩先にいった感じ・・・

あれ、なんか決まった？

次の具体的なアクションにつながる？

内輪で盛り上がった、その上で？

本日の最大の目的
= 誰もが入れる「対話」をつくる

「対話」・・・=リフレクション(内省)

住民同士で/廃炉主体と/自分の中で

聞く→リフレクション(内省)
→聞く→リフレクション→聞く→リフ
レクション→聞く→...

聞いたら必ずリフレクション
=共有する・質問する・考える

今年は

「知る」セッション

からスタート

ここで「知る」とは何か？

「知る」=2つのことを共有する

1)そもそも「廃炉について知る」とは何か？

2)廃炉について知る！

1) そもそも「廃炉について知る」とは何か？

「廃炉について知る」？

「住民向け説明会」をすればよい？

=> 難しい話を一方的にする場になりがち

(理解できる？そもそも普通の人に興味もつ？・・・)

座談会など密なコミュニケーションをとればよい？

=> 顔が見える関係、信頼感をつくる場にはなる

(でも全員が参加できるわけじゃない。ちゃんと知識が身につく？)

「分かるような、分からないような
なんか腑に落ちないような・・・」

いずれもやる意味は大きいが・・・

周りの大方の「普通の人」は、興味がないし、
翌日以降、大部分を忘れていく。

1) そもそも「廃炉について知る」とは何か？

「廃炉について知る」のは

言うほど簡単ではない

住民集めて「儀式」をすれば良いってもんでもない

じゃあ、どうするか？

その試行錯誤は廃炉フォーラムの歴史そのものの

「ぼいすふるむふくしま2018」(P4, 5)



2016年4月10日・11日

第1回 福島第一廃炉国際 フォーラム@いわき市



もっと住民の
声を取り入れ、
議論をすべき！

丸一日を住民
向けセッションに
しよう！



2017年 春～夏

プレ・リサーチ

- イベント前に論点をあぶり出す＆住民のニーズから議論をはじめめる＝フリップド（反転型）リサーチアプローチ！
- とりあえず住民向けイベントをやりました、という「アリバイづくり」「儀式」で終わらせない。



見えてきた課題

私たちはそもそも「何がわからないかが分からない」のでは？

住民と廃炉主体との間の圧倒的なズレ！溝！格差！

見えてきた課題

私たちはそもそも「何がわからないかが分からない」のでは？

2017年 7月 2日

第2回 福島第一廃炉国際 フォーラム@広野町

- 住民の思い（不安、不満、疑問、要望）の可視化
- 「何がわからないかが分からない」から「**そうだったのか**」に



可視化する！共有する！（exグラフィックレコーディング）

第3回 福島第一廃炉国際フォーラムへ

2017年12月24日

フォローアップミニ @福島市



残る課題を確認する中で新たに浮き上がった課題

そもそも「なぜ私たちは廃炉について考えるべきなのか？」

なんで廃炉なんて面倒くさいことに
付き合わされなきゃなんないの？

そもそも「なぜ私たちは廃炉について考えるべきなのか？」

1) そもそも「廃炉について知る」とは何か

I 「何がわからないかがわからない」から「そうだったのか」へ

残る課題について住民と廃炉主体が丁寧に議論し、情報が「伝わる」ようにしていく



II 「なぜ廃炉について考えるべきか」の答えを探す

廃炉の技術的な課題の話で終わらせず、住民の生活や若い人たちの将来の希望も踏まえて廃炉を考えていく

Ⅱ「なぜ廃炉について考えるべきか」の答えを探す

その答え方には、おそらく、3つの方向があるのでは・・・

1) Ethical (倫理) : 「廃炉を答えること＝倫理的だ」

とにかく廃炉は大変なことだし、皆で力をあわせて地域を元通りにする気概が必要だから廃炉を考えるべき！
=>たしかにそうかもしれないが、お役所、東電の独りよがりでは？住民は他にも忙しいし、なぜ付き合わされる

2) Regulation (規制) : 「廃炉を知り、住民目線でも規制することが必要」

廃炉について知っておかないと、何かトラブルがあったり決断を迫られた時に対応できない！知らないと損するよ
=>「別に損してもいいやー他のことで忙しいし、いちいち難しい話で面倒くさいし」と言われたらどうする？

3) Benefit (便益) : 「廃炉を知ることが自分たちの役に立つ」

廃炉には、地域の新たな雇用や産業、文化的な独自性が生まれる可能性がある。深く廃炉を知ればその可能性は増える！

=>本当にそんなことできる？そういうのは不謹慎では？

とりあえずの仮説：
「なぜ廃炉について考えるべきか」の
答えを探るためには「住民の生活」を踏まえるべき

2) Regulation (規制) : 「廃炉を知り、住民目線でも規制することが必要」

=>じゃあ、住民は、

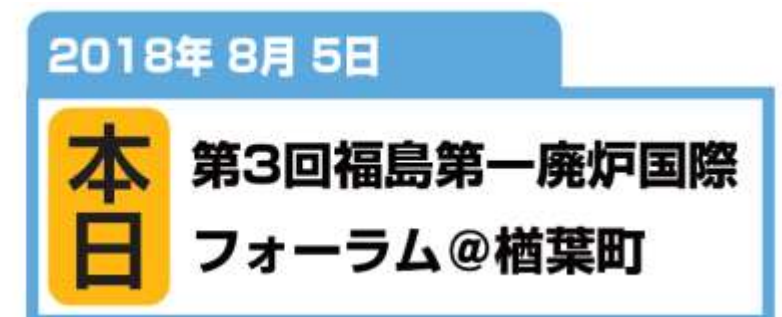
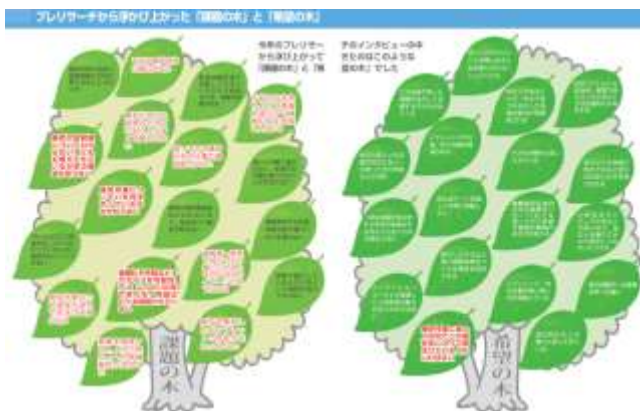
廃炉がある地域での生活にどういう課題意識をもっている？

3) Benefit (便益) : 「廃炉を知ることが自分たちの役に立つ」

=>じゃあ、住民は、

今後の生活や地域のあり方にどんな希望をもっている？

住民の生活を踏まえ「課題」と「希望」をあぶり出すことが必要！



ここまでのまとめ

1) そもそも「廃炉について知る」とは何か？

I 「何がわからないかがわからない」から「そうだったのか」へ

II 「なぜ廃炉について考えるべきか」の答えを探す

そのためには

住民の生活を踏まえ「課題」と「希望」をあぶり出すことが必要！

今日の目標は、

課題と希望を可視化し、その上で対話をする基盤をつくること

以上、「知る」=2つのことを共有するうちの
1つ目

「1)そもそも「廃炉について知る」とは何か？」
でした。

続いて、

「2)廃炉について知る！」

「2) 廃炉について知る！」

廃炉について最低限のことは共有して
今日の話しを進めましょう

- 期間、工程
- 汚染水対策とデブリ取り出し
- 働く人の数・課題
- 誰が何をやっているのか
- 避難指示を経験した地域の生活

期間、工程

Q1. 福島第一原発の廃炉が完全に終わるまでにはどのくらいの時間がかかる？

23－33年

現時点での終了予定は2041－2051年

この計画の実現のためには？

大きく3つの作業工程
それぞれの課題を乗り越える

「福島第一原発の廃炉」=3つの作業

(1) 汚染水対策

(2) 燃料取り出し

原子炉の中には

「(水が入った)プール」と「圧力鍋(的なもの)」がある

(2-1) 使用済み燃料:「プール」・きれいな形

(2-2) 燃料デブリ:「圧力鍋」・溶けている

(3) 解体・片付け(廃止措置)

現状は(1)汚染水対策から(2)燃料取り出しに重心
が移り始めたところ

汚染水対策とデブリ取り出し

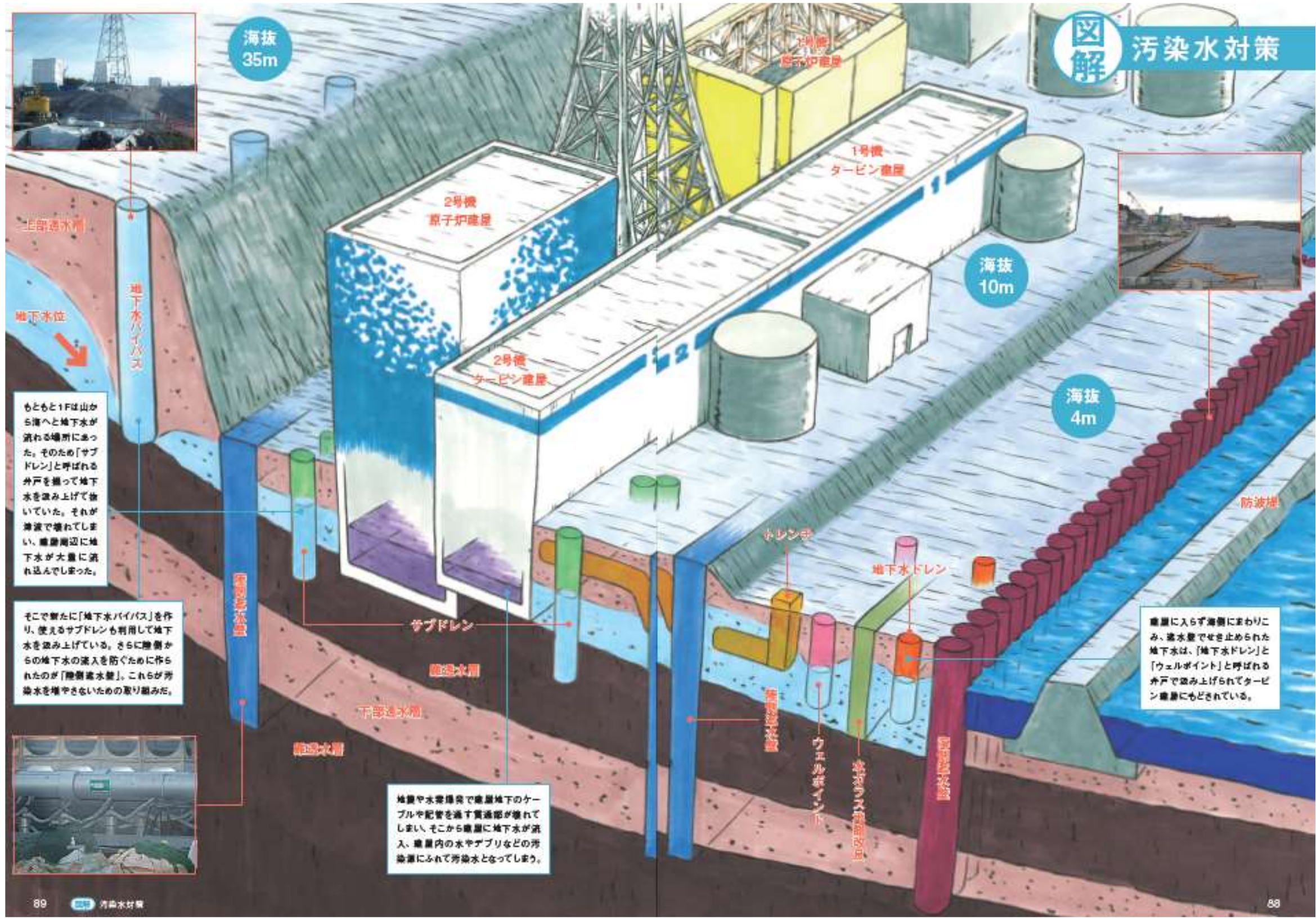
Q2. 凍土壁が完成する
まで福島第一原発1-4
号機建屋の地下に流入
している(た)地下水の量
は1日あたり何 m^3 ほど?

93m³/日
(2017年度実績)

P11 http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/osensuitaisaku/committee/genchicyousei/2018/pdf/0606_01_01.pdf

1つのループ
3か所の井戸
2種類の壁

図解 汚染水対策



海拔 35m

海拔 10m

海拔 4m

もともと1Fは山から海へと地下水が流れる場所にあった。そのため「サブドレン」と呼ばれる弁戸を掘って地下水を汲み上げて捨てていた。それが津波で壊れてしまい、建屋周辺に地下水が大量に流れ込んでしまった。

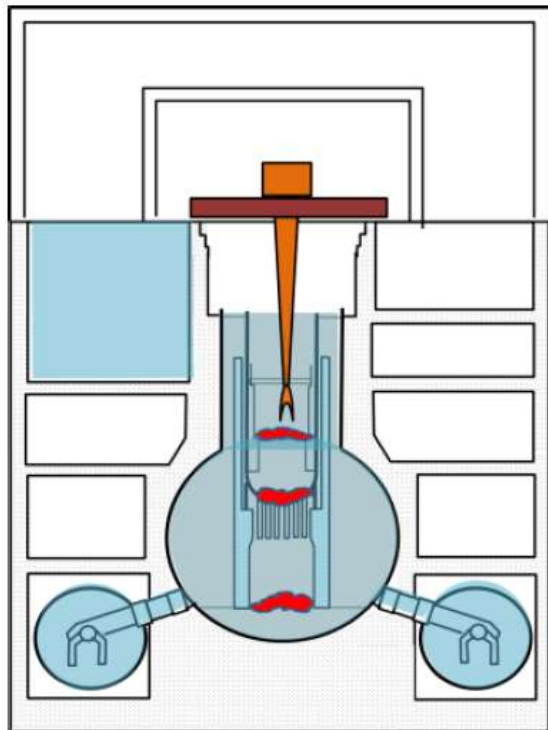
そこで新たに「地下水パイプ」を作り、使えるサブドレンも利用して地下水を汲み上げている。さらに建屋からの地下水の流入を防ぐために作られたのが「防浪水壁」。これが汚染水を増やさないための取り組みだ。

地震や水害発生で建屋地下のケーブルや配管を通す貫通部が壊れてしまい、そこから建屋に地下水が流入、建屋内の水やアクリルなどの汚染源にふれて汚染水になってしまう。

建屋に入らず海側にまわりこみ、海水壁でせき止められた地下水は、「地下水ドレン」と「ウェルポイント」と呼ばれる弁戸で汲み上げられてタービン建屋にもどされている。

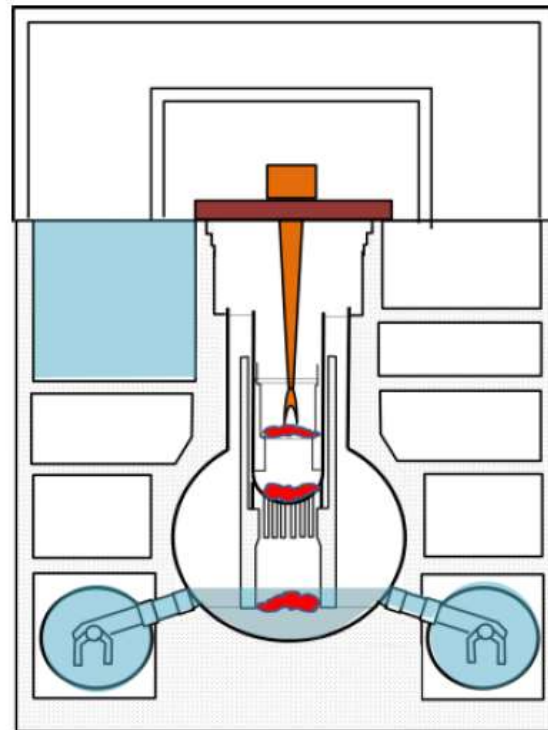
燃料デブリ取り出しは今後いかに進むのか

- 目標：溶けて燃料と金属とコンクリ等がくっついていてるデブリをきれいにする



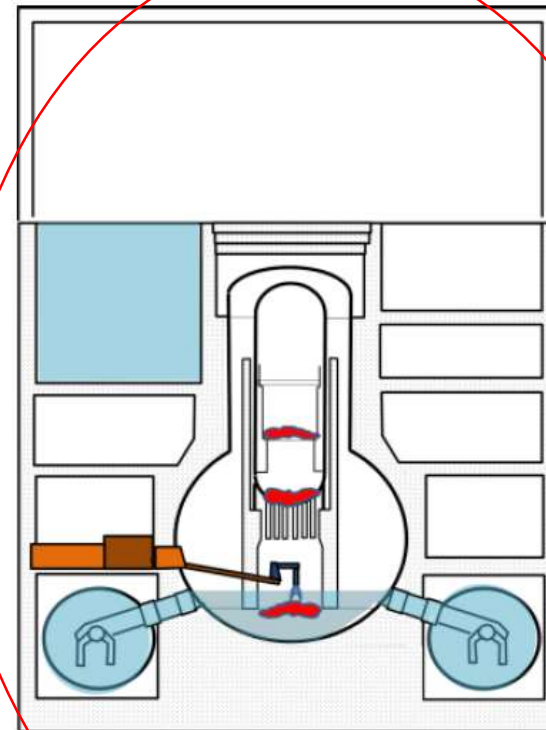
冠水-上アクセス工法

燃料デブリ上方の炉内構造物取り出しが完了していることを前提としたイメージ



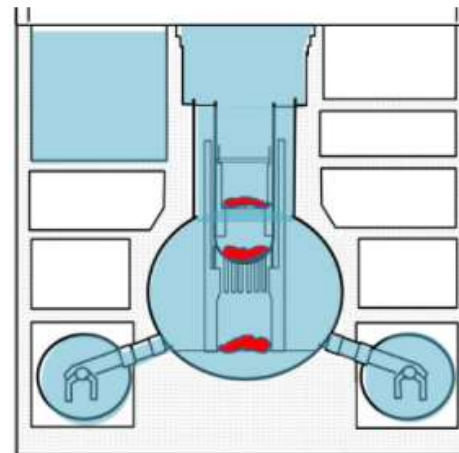
気中-上アクセス工法

燃料デブリ上方の炉内構造物取り出しが完了していることを前提としたイメージ



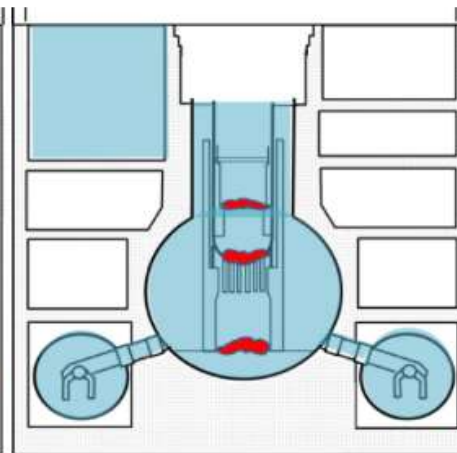
気中-横アクセス工法

PCV内RPVペDESTAL外側の機器、干渉物撤去が完了していることを前提としたイメージ



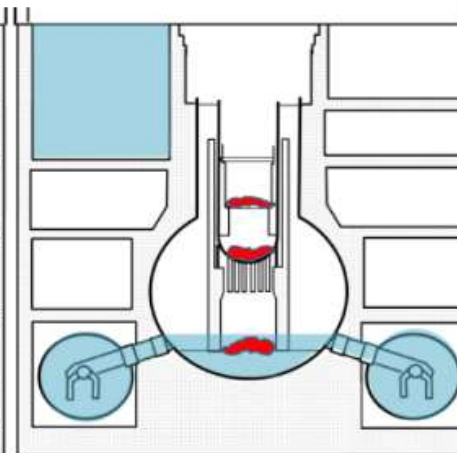
完全冠水工法

原子炉ウェル上部までの水張りを行う工法



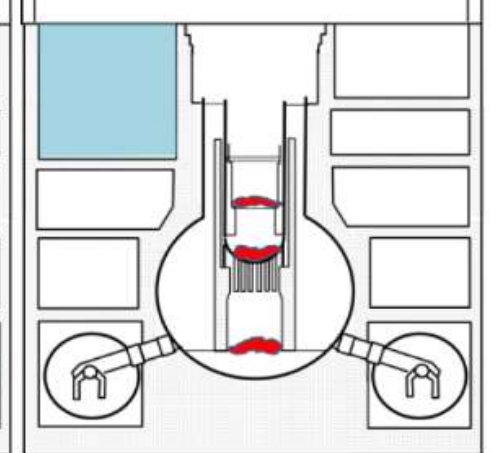
冠水工法

燃料デブリ分布位置より上部までの水張りを行う工法



気中工法

燃料デブリ分布位置最上部より低いレベルまで水張りを行う工法



完全気中工法

燃料デブリ分布全範囲を気中とし、水冷、散水を全く行わない工法

働く人の数・課題

Q3. 福島第一原発では1
日あたり何人ぐらいの人が
が働いている？

1日あたり作業員数・年齢層

- 合計：約4000－5000人

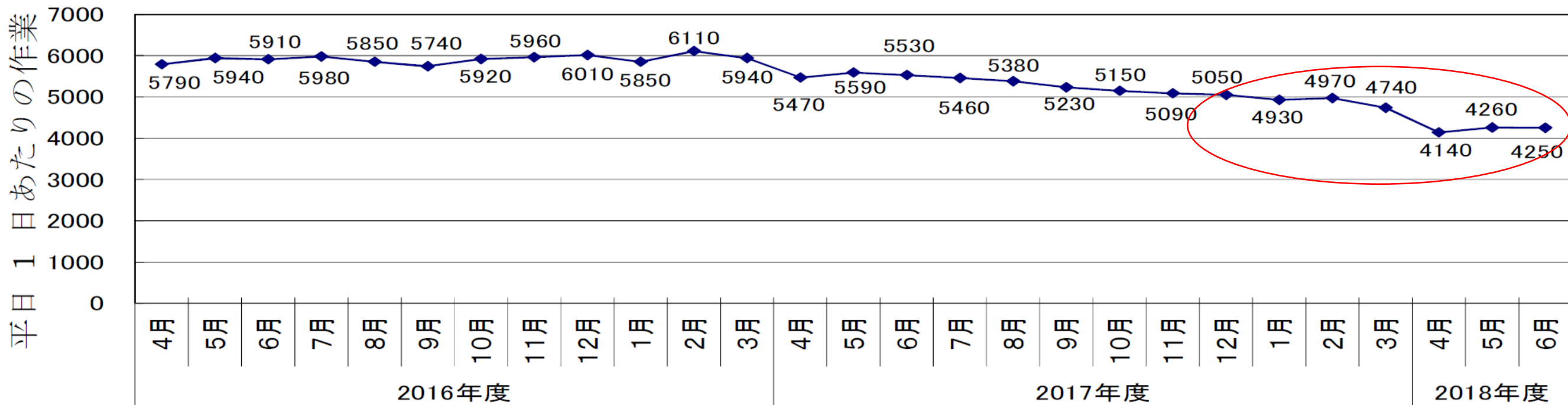


図6：2016年度以降各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）の推移

- 地元雇用率：60%（住民票ベース）
- 作業員確保の課題
 - 若い働き手の確保と育成（30－40年先を見据えて）
 - 地域の働き先としての安定（線量、作業内容、賃金）

P8 <http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/08/2-1.pdf>

- R zone [アノラックエリア] ※1
- Y zone [カバーオールエリア] ※2
- G zone [一般服エリア] ※3

連続ダストモニタ



R zone (アノラックエリア)	Y zone (カバーオールエリア)	G zone (一般服エリア)	
全面マスク 	全面マスク 又は 半面マスク ※1※2 	使い捨て式防じんマスク 	
カバーオールの 上にアノラック 又はカバーオール2重	カバーオール 	一般作業服※3 	構内専用服

※1 水処理設備[多核種除去装置等]を含む建屋内の作業(視察等を除く)は、全面マスクを着用する。
 ※2 濃縮塩水、Sr処理水を内包しているタンクエリアでの作業(濃縮塩水等を取り扱わない作業、パトロール、作業計画時の現場調査、視察等を除く)時及びタンク移送ラインに関わる作業時は、全面マスクを着用する。
 ※3 特定の軽作業(パトロール、監視業務、構外からの持ち込み物品の運搬等)

誰が何をやっているのか

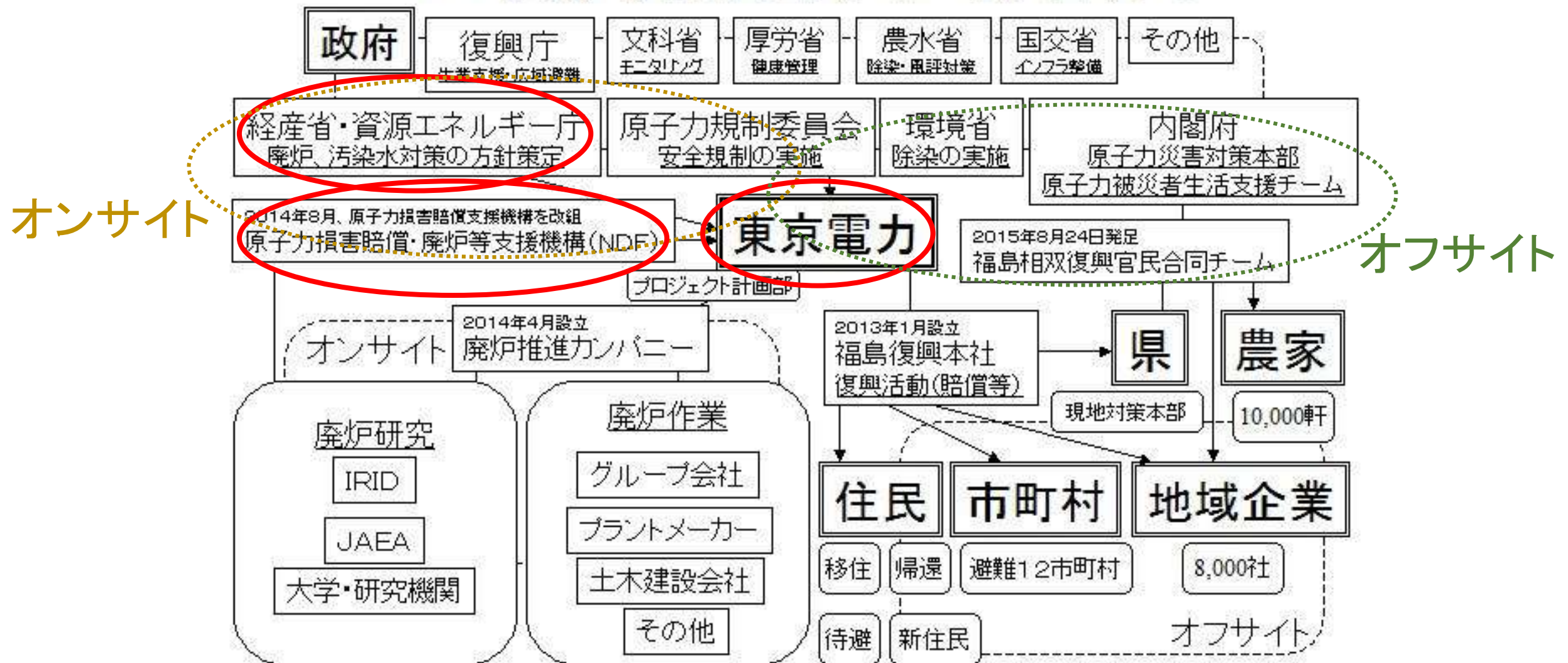
Q4. 廃炉って誰がやっているの？除染とか他のこととは一緒？違う？

そもそも誰が何をしているのか全体像

• 主なプレーヤー

- 政府・行政 経産省: 廃炉、環境省: 除染、内閣府: 区域再編・生活再建支援等
- 東電 廃炉推進カンパニー & 復興本社: 賠償・除染・復興支援活動
- NDF / 官民合同チーム

1F 廃炉関係組織等 見取り図



避難指示を経験した地域の生活

Q5. いま、福島第一原発
周辺の避難を経験した自
治体にはどれだけの人
が居住するようになって
きているのか？

避難を経験した自治体＝12市町村
常に変化しているが、3段階に分けられる

(1) 8割以上

広野町 84.39% 4055／4805(6月末)

(2) 数割～5割ほど

檜葉町 48.05% 3367／7007(6月末)

(3) 1割以下

富岡町 5.6% 738／13170(8月頭)

ここまでのまとめ

「知る」=2つのことを共有する

1)そもそも「廃炉について知る」とは何か？

住民の生活を踏まえ

「課題」と「希望」をあぶり出すことが必要！

2)廃炉について知る！

住民の生活を踏まえ 「課題」と「希望」をあぶり出すことが必要！

その作業がここからの
「話す」セッション
の役割です。

VOICE FROM FUKUSHIMA 2018

今年の議論の進め方：「廃炉の森」をつくる

これから数十年先にゴールが設定されている福島第一原発の廃炉。私たちの目の前には先の見通しの立たない、深く足場の悪い——「**廃炉への森**」がある。

◆今日やること
私たちの眼前に漠然と存在する課題希望正体をあぶり出す。その上で、福島第一原発の廃炉について課題今後の見通しについて住民の立場から徹底的に解明する。

プレリサーチ+ミニワークショップ 課題と希望の抽出！

課題の葉 | 希望の葉

○午前の「話す」セッション：会場全体で話します
(1) 8名のグループで「小さな課題・希望の葉」を各1枚書く
(2) ブロックごとに「小さな課題・希望の木」をつくる
(3) ブロックごとに「大きな課題・希望の葉」を各2枚ずつ書く
(4) 全体で「大きな課題・希望の木」をつくる
(5) 午後のセッションへ

○午後の「聞く」セッション：地元登壇者が原子力損害賠償・廃炉等支援機構、経済産業省、東京電力の担当者に聞きます
(1) プレリサーチの結果(次ページ以降の「課題の木・希望の木」や「廃炉の課題マップ」を参照)や午前の話すセッションの内容を踏まえて、問いかけます
(2) 問いへの答えが納得できるまで聞きます
(3) それを繰り返す中で会場から出たさらなる疑問についても聞きます
(4) 最後にシールを貼ってフィードバックします

第3回福島第一廃炉国際フォーラム DAY1 住民向けセッション

「話す」セッション

ファシリテーター

開沼 博

(立命館大学准教授)

今年の議論の進め方：「廃炉の森」をつくる

これから数十年先にゴールが設定されている福島第一原発の廃炉。
私たちの目の前には先の見通しの立たない、深く足場の悪い

「廃炉への森」がある。

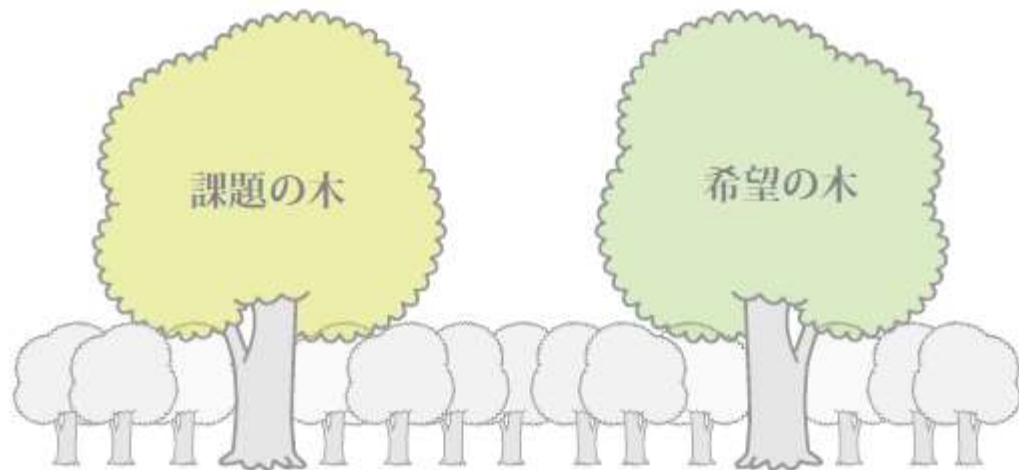
ゴールに向かう中で、この森の実態を明らかにし、皆で理解し合うことなしに、私たちは途中で立ちすくんでしまうだろう。

森には多くの木がたっている。そこには、「課題の木」と「希望の木」の両方がたっているだろう。

私たちが漠然と捉えている課題と希望を明らかにしながら、どんな課題と希望がそこにあるのか、考えてみましょう。

そして、

「何がわからないか」をわかり、
「そもそも、なぜ私たちが廃炉について考えなければならないのか」という問いにもできる限り向き合う時間にしましょう。



◆今日やること

私たちの眼前に漠然と存在する課題希望正体をあぶり出す。その上で、福島第一原発の廃炉について課題今後の見通しについて住民の立場から徹底的に解明する。

プレリサーチ+ミニワークショップ

課題と希望の抽出！



- 午前の「話す」セッション：会場全体で話します
- (1) 8名のグループで「小さな課題・希望の葉」を各1枚書く
- (2) ブロックごとに「小さな課題・希望の木」をつくる
- (3) ブロックごとに「大きな課題・希望の葉」を各2枚ずつ書く
- (4) 全体で「大きな課題・希望の木」をつくる
- (5) 午後のセッションへ

- 午後の「聞く」セッション：地元発着者が原子力損害賠償・廃炉等支援機構、経済産業省、東京電力の担当者に聞きます
- (1) プレリサーチの結果(次ページ以降の「課題の木・希望の木」や「廃炉の課題マップ」を参照)や午前の話すセッションの内容を踏まえて、問いかけます
- (2) 問いへの答えが納得できるまで聞きます
- (3) それを繰り返す中で会場から出たさらなる疑問についても聞きます
- (4) 最後にシールを貼ってフィードバックします



ここから「話す」セッション

今年の議論の進め方:「廃炉の森」をつくる

これから数十年先にゴールが設定されている福島第一原発の廃炉。
私たちの目の前には先の見通しの立たない、深く足場の悪い

「廃炉への森」 がある。

ゴールに向かう中で、この森の実態を明らかにし、皆で理解し合うことなしに、私たちは途中で立ちすくんでしまうだろう。

森には多くの木がたっている。そこには、「課題の木」と「希望の木」の両方がたっているだろう。

私たちが漠然と捉えている課題と希望を明らかにしながら、どんな課題と希望がそこにあるのか、考えてみましょう。

そして、

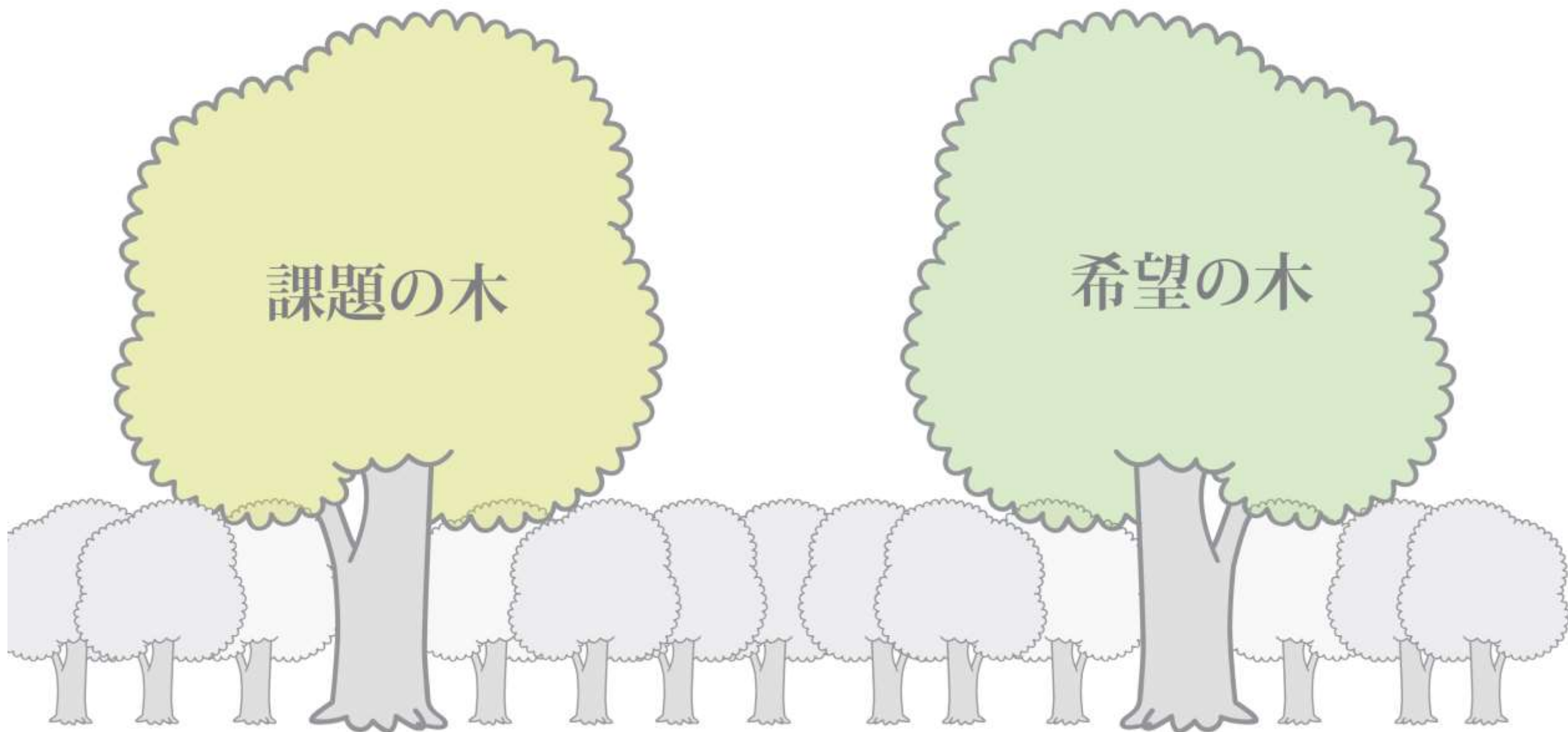
「何がわからないか」をわかり、

「そもそも、なぜ私たちが廃炉について考えなければならないのか」

という問いにもできる限り向き合う時間にしましょう。

課題の木

希望の木



◆今日やること

私たちの眼前に漠然と存在する課題や希望をあぶり出す。その上で、福島第一原発の廃炉についての課題や今後の見通しを住民の立場から徹底的に解明する。

プレリサーチ+ミニワークショップ

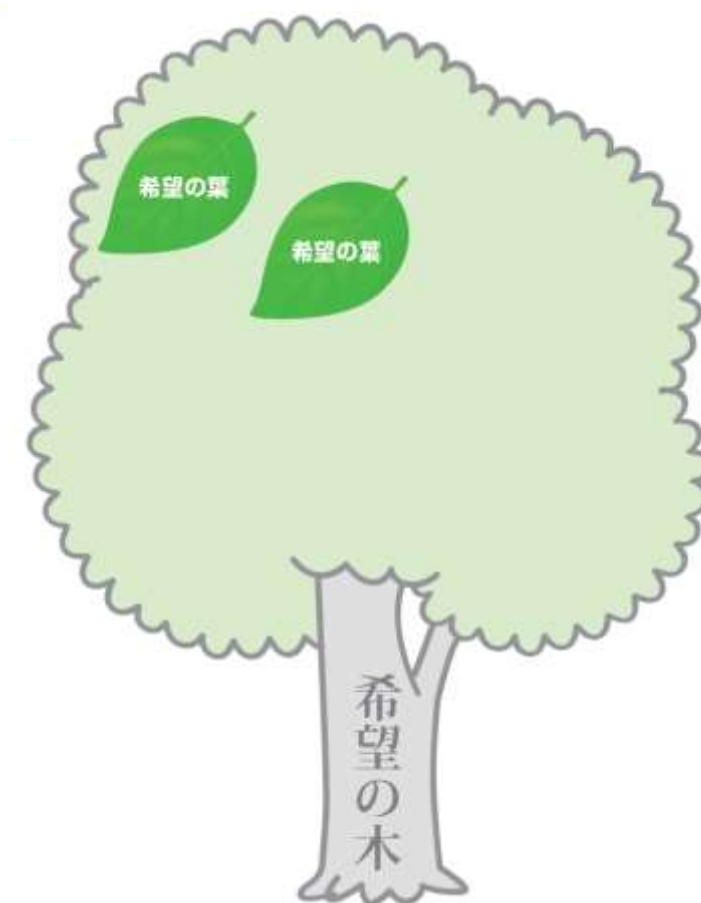
課題と希望の抽出！

課題と希望の抽出！



○午前の「話す」セッション：会場全体で話します

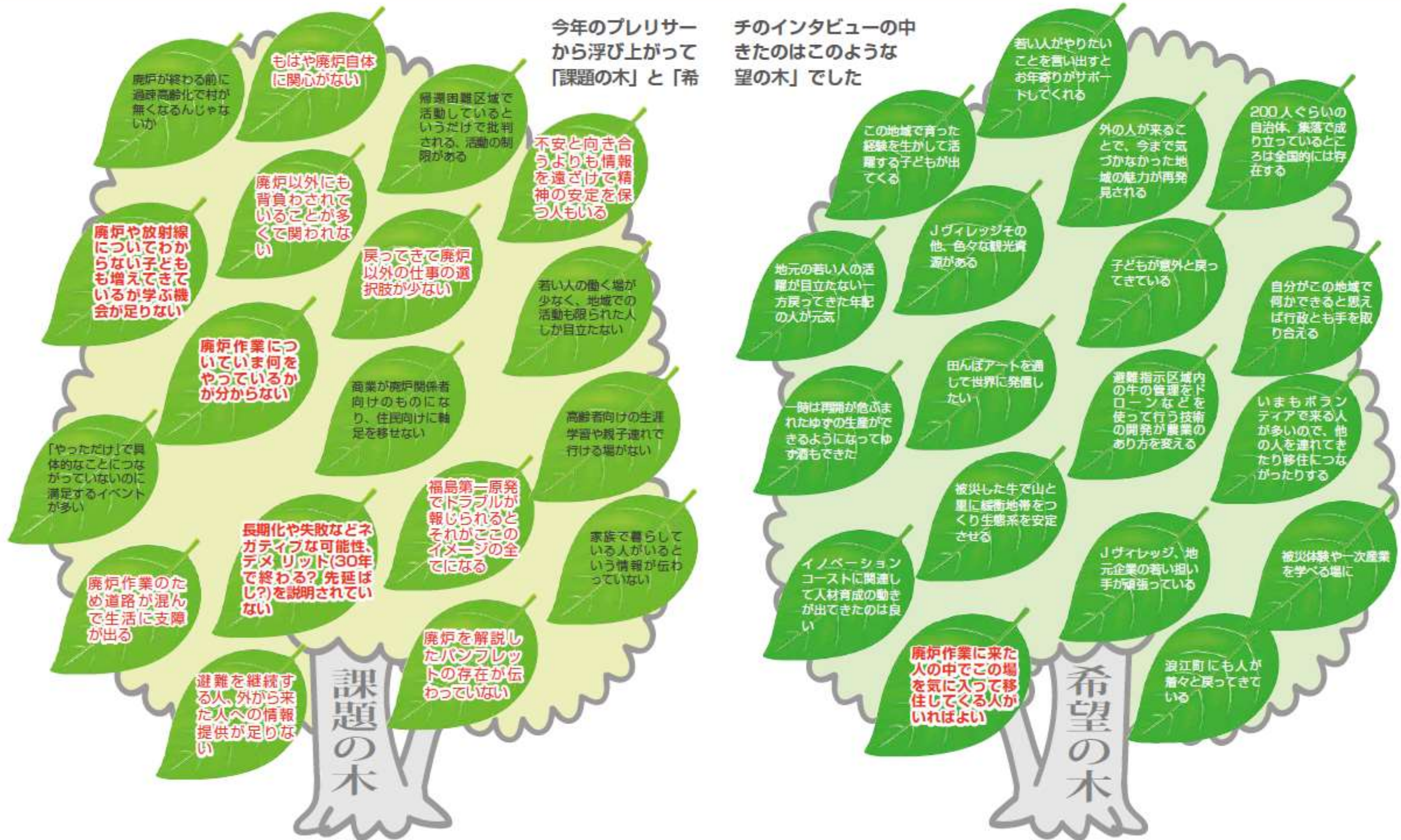
- (1) 6名のグループで「小さな課題・希望の葉」を各1枚書く
- (2) ブロックごとに「小さな課題・希望の木」をつくる
- (3) ブロックごとに「大きな課題・希望の葉」を各2枚ずつ書く
- (4) 全体で「大きな課題・希望の木」をつくる



午後は、この「話す」セッションで作った木を踏まえ
廃炉の課題についてとことん深めます

「課題の木」「希望の木」のサンプル

プレリサーチから浮かび上がった「課題の木」と「希望の木」



6つのSTEP(35)

参加者の課題と希望を可視化し、
「大きな木」=本日議論する課題と希望を抽出する作業をします

STEP1 6名のグループを確認

STEP2 付箋=「小さな課題の葉(黄)・希望の葉(緑)」を各1枚確認

STEP3 グループで話し合い、(一番右前の人から口火を切る)
「小さな課題の葉(黄)・希望の葉(緑)」に書く内容を決める(10分)

STEP4 「小さな課題の葉(黄)・希望の葉(緑)」を書いた順に
「大きな木」に貼る(ボランティアサポーターに渡してください)

STEP5 ブロックごとに「大きな課題・希望の葉」を各2枚ずつ書くべく、
「小さな課題・希望の木」をもとに話し合う

STEP6 2枚(1枚でも可)ずつ書いて午後のセッションへ

STEP1 6名のグループを確認



STEP2

付箋＝「小さな課題の葉（黄）・希望の葉（緑）」を各1枚確認



STEP3

グループで話し合い、(一番右前の人から口火を切る)
「小さな課題の葉(黄)・希望の葉(緑)」に書く内容を決める(10分)

- ・ステージ向かって一番右前の人から、何を書くのか話し始めて下さい
(例)

「自分が、廃炉やこの地域について

課題に思うことは～、希望に思うことは～」

「いま気になることは～。これは課題だと思うんです」

「この地域には～っていう良いこと・ものがあるって、これは希望だよ」

【注意】

一人で長々と話しすぎない！(30秒～1分で次の人に回す)

- ・5分程度たったら声を掛けますので
紙に書く内容をまとめて言って下さい

STEP4

「小さな課題の葉(黄)・希望の葉(緑)」を書いた順に
「小さな木」に貼る(ボランティアサポに渡してください)



STEP5

ブロックごとに「大きな課題・希望の葉」を各2枚ずつ書くべく、
「小さな課題・希望の木」をもとに話し合う

- まず、全体で「似た内容が多いか」「内容にバラツキがあるか」「目を引く議論があるか」などをボランティアサポーターが確認します。
- その上で、何をブロック全体で重要な課題・希望かなど、意見を言い合います。
挙手など積極的に話し出すのが理想です。もし誰も話す兆しがない場合は、ボランティアサポーターが指名します。
- できるだけ多くの方が話せるように議論して行って下さい

【注意】

一人で長々と話しすぎない！（30秒～1分で次の人に回す）
とは言え、消極的にならず、思いの丈をぶつけて下さい。

- 5分程度たったら声を掛けますので
紙に書く内容をまとめて行って下さい

STEP6

2枚(1枚でも可)ずつ書いて午後のセッションへ



昼食休憩

昼休み冒頭を使って大きな課題の木・
希望の木を作る作業をします。

多くの意見を取り入れたいので手伝い
or見学する方は舞台まで来て下さい！

第3回福島第一廃炉国際フォーラム DAY1 住民向けセッション

「問う」セッション

ファシリテーター

開沼 博

(立命館大学准教授)

「問う」セッション

- (1) プレリサーチの結果(次ページ以降の「課題の木・希望の木」や「廃炉の課題マップ」を参照) や午前の話すセッションの内容を踏まえて、問いかけます
- (2) 問いへの答えが納得できるまで聞きます
- (3) それを繰り返す中で会場から出たさらなる疑問についても聞きます
- (4) 最後にシールを貼ってフィードバックします

「問う」セッションの前提

- 事前にプレリサーチを行った。
住民座談会・インタビュー・フォーラムを通して(「ぼいすふるむふくしま2017」「同2018」あわせて19組50名ほど＋第二回福島第一廃炉国際フォーラム＋フォローアップミニ)「廃炉への思い」を集めてきた
- ここまでに明らかにになった様々な廃炉の課題を
「廃炉の課題マップ」にまとめた
- ここにあるような問題について住民が廃炉主体に「問う」
- その際に、「課題の木」「希望の木」を皆で踏まえて話を進める

浮かび上がってきた「廃炉の課題マップ」

これまでの福島第一廃炉国際フォーラムに関する活動を通して、様々な課題が浮かび上がってきました。技術的なことはもちろん、廃炉の作業が続く中で住民の生活に生じる問題も見えてきています。本日の議論もそれを踏まえて進めていきます。

「要望」が多い
=> 具体的改善策の提示と実践必要

「不安」が多い
=> 不安のもととなる課題の解決と信頼関係の再構築

「疑問」が多い
=> 正確な知識の共有

傾向	地域の将来	情報発信・コミュニケーション	安全・危機管理	事業計画、廃炉促進
解決が遠い (長期的に解決困難?) ↑	<ul style="list-style-type: none"> ・廃炉が終わったあと何が残る? ・廃炉や放射線についてわからない子どもも増えてきているが学ぶ機会が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ住民が廃炉の話に付き合わされなければならないのか? ・長期化や失敗などネガティブな可能性、デメリット(30年で終わる?先延ばし?)を説明されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚染された建屋やそこから出た廃棄物がある限り、汚染が広がるリスクはあるのでは? 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り出したデブリはどうする? ・費用や廃棄物の負担を下の世代におしつけるのか? ・コスト・リスクを考え、全体スケジュールを30-40年より長くしたり短くしたりもすべきでは?
(いずれ解決できるかも?)	<ul style="list-style-type: none"> ・復興関係で来た人を前提としたまちづくりの姿が見えない、単身赴任ばかりか ・子育てを安心してできない ・復興創生期間、2F廃炉後の地域経済をどうするか ・もはや廃炉自体に関心がない ・戻ってきて廃炉以外の仕事の選択肢が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原発でトラブルが報じられるとそれがここのイメージの全てになる ・海外での福島のイメージがひどい ・不安と向き合うよりも情報を遠ざけて精神の安定を保つ人もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・また再臨界や爆発する可能性は? ・廃炉作業についていま何をやっているかが分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の終わりは更地?途中で止める? ・働き手の確保は長期的に大丈夫か? ・デブリ取り出し本当にできる?できるならどうする?できないとしてどうなる? ・トリチウム水の処理、意思決定どうする?
(すぐに解決し得る)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業で交通渋滞が起こって不便 ・廃炉以外にも背負わされていることが多くて関われない ・イノベーションコスト構想が地域にもたらすメリットが見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・東電、行政等のWEB、冊子がわかりにくい ・避難を継続する人、外から来た人への情報提供が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の中で一次産業や周辺地域での居住に問題はでないか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・2Fはどうなっていくのか? ・無駄なコストをかけてないか? ・タンクの水はどこまで増える?
(既に解決しつつある) ↓ 解決が近い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が廃炉を議論する場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃炉を解説したパンフレットなどの存在が伝わっていない 		<ul style="list-style-type: none"> ・汚染水は漏れていないか?

「問う」セッションの流れ・登壇者

- 流れは以下の通り

- (1) 7名の住民に登壇頂く

- (2) 課題の木・希望の木を確認

- (3) 何を聞くのか、優先順位をつける。

(時間の限度があるので

仮に1問10分程度かかるとして7-10問程度?)

- (4) 優先順位が高い順から順番に質疑応答。不明点を明確化

- (5) 適宜、会場の理解度チェック=「リアルタイムシステム」

- (6) 適宜、海外コメンテーターのコメント

- (7) 次の問いに。これを繰り返す

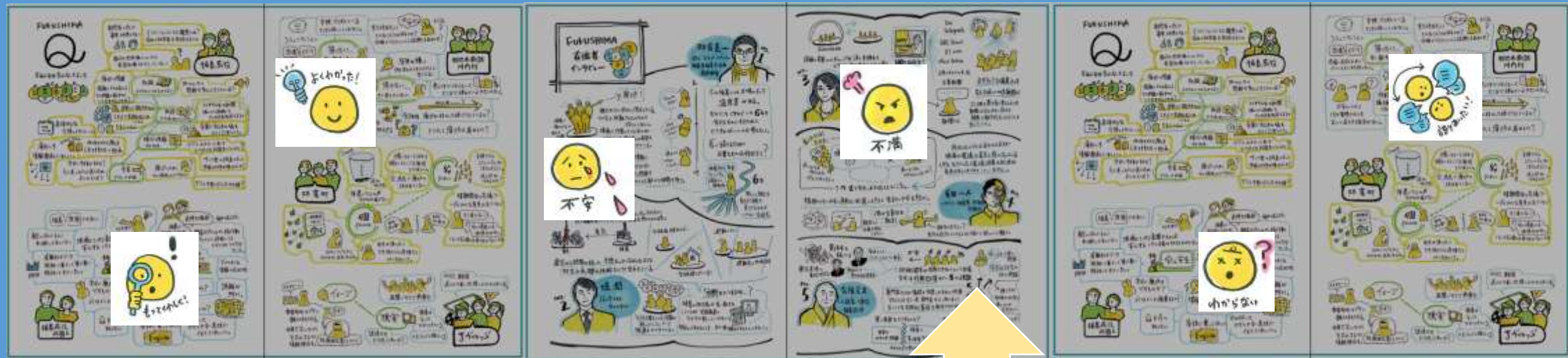
- (8) 疑問、意見があれば用紙に書いてボランティアサポーターに渡してください。ボランティアサポーターは15時30分までに手元の用紙を会場横担当者まで持ってきて下さい

※議論はグラフィックレコーディングで記録していきます

最後に・・・

フィードバックセッション

帰る前に感想や残った疑問を
フィードバック！



よくわかった

語り合いたい



もっとくわしく

不満

わからない



不安

「いまの気持ち」を貼って
心残りをフィードバック！

グラフィックレコードに
自由にシールを貼って
いまの気持ちを
残してから帰って下さい

